

小学校英語活動レポート

| | | | | |
|------------------------|--|--|---|---|
| ターゲット | “Personality” 人の性格を表す言葉に親しみ、クラスの友達のことを紹介してみよう | | | |
| 主な語彙 | friendly, noisy, shy, funny, cool, smart, kind, quiet | | | |
| クラス | 5年生 36名、45分間（月に1回程度、英語活動を行なっている） | | | |
| テキスト | 特になし | | | |
| 他に使ったもの | Personality カード（大・1セット=それぞれのイラストのカードを、B5サイズでパウチしたもの、小・8セット=A7サイズくらいのクリアポケットにカードを入れたもの）、マグネット紙と鉛筆 | | | |
| 授業の流れ | 主な活動 | | | |
| | HRT(担任) | AET(英語指導助手) | ES(英語サポーター) | 子どもたち |
| Greeting | Hello. -I'm fine, thank you. | Hello. How are you, ○○ sensei?（任意の子にも）How are you? | Hello. -I'm OK. | Hello! -I'm fine, thank you. |
| Warm up “John Says” | 教室の前で一緒にゲームに参加。 （先生が間違えると、子どもたちは盛り上がる） | 命令ゲーム “Simon Says” を AET の名前で行なう。 John says, dance! John says, touch your nose.（耳を触ってミスを誘う） Game over, sit down.（これもひっかけ！） （勝ち残った子たちに） Champions! | 生徒の席の間に立って一緒にゲームに参加、ほめたり励ましたり、声をかける。 Well done! Good try. | （慣れた様子で、立ち上がって楽しそうに参加する。ミスをした子は座り、他の子たちを見ている。 「○○、間違えたぞ」などとチェックし合っている） |
| Introduction | 単語を声に出して、子どもたちと一緒に練習。 | Personality、性格と日本語も交えつつ、カードで導入。 カードをマグネットで黒板にはっていく。 Who is the noisy person? と質問も。 カードを指しつつ、口頭練習。 | friendly, quiet など時々 AET より日本語での説明を求められ、一言、二言クラスに向けてフォローする。 | noisy, shy kind などの導入時の質問に合わせて、クラスメートを指さしている。 |

↓金井さやかより、コメント↓

AET は、ネイティブ講師を研修・派遣する会社でトレーニングを受けてきているとのこと。
20代男性、イギリス出身。1年以上の経験あり。授業運び、クラスのコントロールに優れている。

時間割上、授業の前に休み時間のないコマだったこともあり、今回は事前の打ち合わせなどはなし。AET 主導で進んでいく。

【ES】 I'm fine, thank you. 以外の例を見せるため、違う返答をした。

【AET】 John says, のあとにテレビではやっているフレーズなども織り交ぜて、子どもたちを喜ばせる。

◆ 要チェック！
この日は楽しい活動として問題なかったが、noisy などマイナスイメージのある語についてクラスメートを皆で指さす、という行為には配慮が必要な場合もありそう。

| | | | | |
|------------------------------|--|--|---|---|
| Practice | 子どもたちと一緒に声を出しつつ、状況を確認し、発話を促す。 | 男-He 女-She と板書。 カードのイラストを見ながら、 She is friendly. He is smart. などと文で練習。 | 子どもたちと一緒に声を出しつつ、状況を確認し、発話を促す。 | 声を出して、全体で練習する。 |
| Activity1 What's my card? | 4～6 人を一組として子どもたちをグループに分ける。 活動の実演に参加後、教室内を回る。 | Volunteer? 英語で話しながら、活動の実演。 ゲーム中は、子どもたちの間を順に回ってフォロー。 | 活動の実演に参加。 ゲーム中は、子どもたちの間を順に回ってフォロー。 | 指名された 1 人がボランティアとして実演に参加。 8 グループに分かれて、ゲームを行なう。 |
| Activity2 Who is it? | 6 人一組の、クラスの「班」ごとに活動するよう指示する。 子どもたちの間を回ってフォロー。 | 活動の流れを ES に英語で説明する。 発表の準備をしている間、子どもたちの間を順に回ってフォロー。 | 活動の流れを子どもたちに日本語で説明。 発表の準備をしている間、子どもたちの間を順に回ってフォロー。 | 日本語で相談し、英語表現を代表者が紙に書いていく。カタカナでも OK。 |
| Review | 子どもたちと一緒に声を出しつつ、発話を促す。 | ターゲットの復習。 黒板のカードを示しながら、文の形で一通り確認。 | 子どもたちと一緒に声を出しつつ、発話を促す。 | ターゲットセンテンスの復習。声に出す。 |
| Closing | 挨拶の最後に、AET と ES にも子どもたちから改めてお礼を言うようにさせる。 | 日本語・英語交じりで声をかけ、終わりの挨拶へ。 | Thank you. I hope to see you again soon. | Thank you, goodbye. |

AET が漢字を書くと、「おお～」と感嘆の声が出る。これは外国人講師の行動だからこそそのリアクション。

【ES】子どもたちの間を回って、質問されたときに単語の発音を再度聞かせたり、様子を見てジェスチャーでヒントを出したりした。

【ES】活動の説明中は、日本語をメインにしつつも英語を交えて、正しく伝えているか AET も確認できるようにした。結果として、AET から随時補足説明が入るなどしたので誤解のないように進められた。

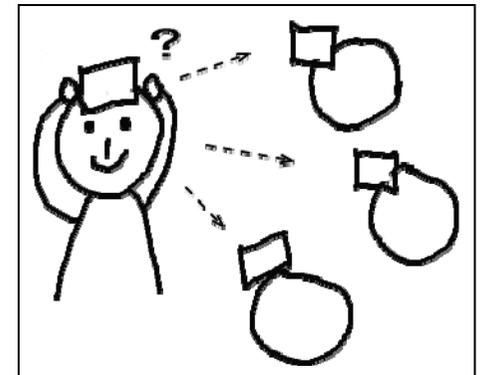
【ES】strawberries のスペルの手助けを求められた。英検 4 級を持っている女の子で、親御さんが日本人ではない様子、友達からも「お前すごいな 英検持っているんだろ」と一目置かれていた。クラスにはもう一人、外国名の男の子がいて、陽気に、積極的に参加していた。

Activity: What's my card?

- (1) 4人～6人一組で、人数と同じ枚数のカードを使う。
- (2) カードを机の上に広げ、どのカードがあるかを覚えてあと、裏返して混ぜる。
- (3) 「せーの」で一人1枚ずつカードを取り、自分ではそのカードを見ないように、おでこに当てる。このとき、他の仲間からは自分のカードに書いた字や絵が見えるようにする。
- (4) 仲間が持っているカードを見渡して、自分のカードが何かを推測し、できるだけ早く自分のカードが何かを当てる。

例： smart, cool, quiet, kind のカードを使い、
smart, cool, quiet のカードが自分から見えている場合・・・”She is kind.”
これを繰り返す。

人数が多くなるほど、覚えるべきカードが増えるため、
難しくなる。



子どもたちは、8枚のセットのうち
適当なものを取って使い、しば
らくしたらカードを入れ替えて
うまくやっていた。

Activity: Who is it?

- (1) 6人一組で、グループで紙一枚と鉛筆を1本用意する。
- (2) 他のグループに内緒で、自分たちの中から一人、誰について話すかを決める。
その人について、He is shy. He likes spaghetti. などと紹介する文を作ってメモする。(下線部分を自由に決める)
- (3) 発表役 (spokesperson) を一人決め、その人がクラスみんなの前で先ほど作った文を読み上げる。
他のグループの人はその発表を聞いて、誰のことを話しているか当てる。
分かった人は挙手し、発表役に指名されたら答える。3回以内に当てられるようにする。

実際は男女3人ずつの班だったため、き
ちんと聞いていれば、He/She の時点で
可能性は絞られる。どのグループも2回
ほどで友達の名前を当てていた。

(アクティビティの名称はこちらでつけました。)

◆ 活動を終えて：

小学5・6年生は、「間違えると恥ずかしいからやりたくない」などの気持ちが芽生えて、全体に苦勞することの多い学年だが、今回のクラスは練習の声もよく出ていて、全体に前向きに参加している印象だった。

子どもたちは、私が教室に足を踏み入ると好奇心いっぱい顔で見る。Hello と声をかけると、嬉しそうに Hello と返してくれる子が3分の1程度。あとは様子見だが、雰囲気は悪くなかった。

直前に担任の女性教諭がクラスをまとめて、行事に向けた「起立」「礼」の練習をしていた様子からは、子どもたちがよくまとまって話を聞いている感じを受けた。

英語の授業中、姿勢が悪く、参加する気力が弱い感じの子も見受けられたが、英語のクラスだけのことなのかどうかは不明。

今回は AET とは少し話ができたが、担任の先生と個人的に挨拶、意見交換などができなかったため、クラスの普段の状況、今日の様子が普段と比べてどうだったかなどは聞けなかった。

小学校は英語だけをやっているところではないので、学校生活の流れを理解しながら、対応が必要な部分はきちんと意見交換をするなど、サポーターとして気持ちよく協力できるようにしたい。

活動の発表で、「お前が言えよ」「無理だよ」などと指名されてももめている班があったが、一人の男の子がなんとか立ち上がって発表できた。このあと、がんばりを認める気持ちを伝えたくて、“Well done! You did a great job.”などと個人的に声をかけた。授業後に廊下で顔を合わせたので、その子に Thumb up（親指を立てて「よくやったね」の気持ちを表現）して見せたら、笑顔が返ってきた。「無理やり発表させられた」のではなく、「がんばったらほめられて気持ちもよかった」という記憶になるといいな、と思う。

* AETの様子： 職員室では、AETも教師用の給食を運ぶのを手伝ったりして、とけこんでいる様子。給食を子どもたちと一緒にとった日もあるという（給食の時間直前に授業をした4年生のクラスで）。AETが廊下を歩いていると、その日は授業のない子達も声をかけてくる。

◆ 教室でのサポートがメインになるため、活動中の写真などは撮影できませんが、実際の授業内容を元に、できるだけ分かりやすく、再現しやすく、といった点に気をつけながらレポートを作成しました。ご質問・ご要望などがありましたら、遠慮なくお寄せください。レッスンプランへのご意見、実際に取り入れてみての様子や感想などもお待ちしております。

メールアドレス

info@english-box.com (English-Box 金井さやか まで)